

第2次

滝川市環境基本計画・地域行動計画

年次報告書（案）

（平成29年度評価版）

滝川市

◇第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画 年次報告書とは…

滝川市では「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」（以下「環境基本計画」という。）という環境に関する計画を平成28年3月に策定しました。環境基本計画では、滝川市では環境においてどのような取組が行われているか、また、実際にはどこまで成果が上がっているのかなどを、毎年、検証することも取り決めています。この報告書はその一環として前年度の状況などをとりまとめて、皆さんにご報告するためのものです。

「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」とは

目指すべき環境の姿を実現するため、次のとおり基本目標を掲げます。

また、この基本目標を達成するため、環境を構成する4つの分野のそれぞれに基本目標を定めます。これらの分野別基本目標は、第1次計画における4つの分野別物語に当たるものです。

基本目標

豊かな環境を1人ひとりが守り育む

『環（わ）のまち』たきかわ

目標1 生活環境

環境にやさしく資源を有効に活用する循環型社会を目指すまち

目標2 地球環境

エネルギーを大切に、環境への負荷の少ないまち

目標3 自然環境・農業

身近な自然と触れ合うことでその大切さや素晴らしさを実感できるまち

目標4 環境コミュニティ

みんなが学び、共有することによる環境保全の環（わ）が広がるまち

計画では平成37年度までに、次のとおり具体的な数値目標を設定しています。

項目	目標値	備考
市民1人・1日当たりのごみ排出量(家庭系ごみ) ※資源ごみは除く	500g	—
リサイクル率	25.0%	—
省エネモニターのCO2排出量	年平均1%減	—
滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量	4,250kg	—
エコネット登録団体の自然保護活動参加人数	8,700人	—
農業体験授業(事業)実施校数	150校	—
環境学習リーダー養成講座の受講者数	350人	第1次計画175名からの累計
環境市民大会における参加者の平均評価点	85点以上	—

(1) 生活環境 (身近な問題)

1 平成29年度における数値目標の達成状況について

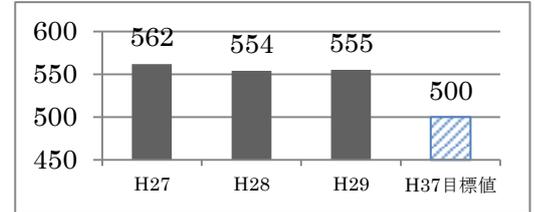
市民1人・1日当たりのごみ排出量 (家庭系)

目標値 (平成37年度時点) 500 g/人・日
 実績値 (平成29年度) 555 g/人・日

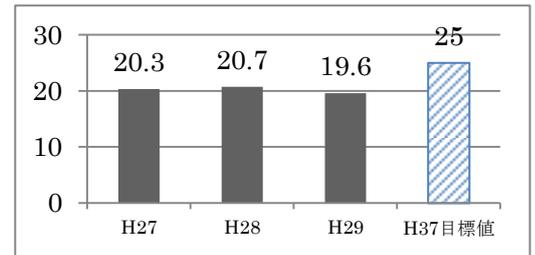
リサイクル率

目標値 (平成37年度時点) 25.0%
 実績値 (平成29年度) 19.6%

☆H29年度の状況



市民1人・1日当たりのごみ排出量



リサイクル率



昨年度比べて市民1人・1日当たりのごみ排出量は微増し、リサイクル率は減少しました。この理由は、災害などの罹災ごみの処理のためで、これを除くと、前年度並みとなります。

引き続き、市民運動「エコたき」を推進して行くとともに、再度市内全世界帯に配布した「ごみ分別ガイド」などを活用してもらい、ごみの減量化とリサイクル意識の向上をめざします。

区分		単位	29年度	28年度
収集人口 ①		人	40,523	40,978
収集世帯		世帯	21,395	21,453
家庭系	生ごみ	t	1,689	1,718
	燃やせるごみ	t	5,216	5,173
	燃やせないごみ	t	492	524
	粗大ごみ	t	806	876
	資源ごみ	t	683	675
	計 ②	t	8,886	8,966
事業系	生ごみ	t	1,880	1,803
	燃やせるごみ	t	2,694	2,708
	燃やせないごみ	t	92	101
	粗大ごみ	t	※ ¹ 607	253
	資源ごみ	t	74	109
	計 ③	t	5,347	4,974
資源化量 (資源回収以外)	燃やせないごみ・粗大ごみより回収	t	610	629
	生ごみより回収	t	143	141
	資源ごみより回収	t	726	753
	計 ④	t	1,479	1,523

※¹ リサイクルクリーンの排水処理設備及びメタン発酵槽の整備により発生した汚泥固化の受入れのため数値が増加

資源回収	拠点回収	t	66	80
	集団資源回収	t	1,561	1,644
	資源回収の合計 ⑤	t	1,627	1,724
合計 ⑥ (②+③+⑤)		t	15,860	15,664
埋立処分量		t	1,337	1,080
●リサイクル率 (④+⑤) /⑥		%	19.6	20.7
●市民1人・1日当たりのごみ排出量 (家庭系※1)		g	555	554

表1 一般廃棄物の収集内訳等

●印は数値目標項目

※1 資源ごみ及び資源回収除く

2 平成29年度における主な取組について

(1) 市民運動エコライフたきかわ(=エコたき)の推進

滝川市では、新しい市民運動として、平成28年度からいつでも、どこでも、だれでも簡単にできる「人」と「地球環境」にやさしい行動「エコたき」の推進を行っています。平成29年度は「エコたき」の基本となる「エコたき4か条」の「エ(エネルギーを大切に)」を重点的な普及目標とし、専任講師から特別な指導を受けた高校生や短大生が、市内児童センター、保育所、小学校で子ども達に「エネルギーの大切さ」や「エネルギーの無駄使いと地球温暖化」、「自然エネルギー」などをテーマにした環境教室を実施しました。



(2) 集団資源回収事業

町内会をはじめとした各種団体において、資源の回収を奨励し、回収された資源の量に応じて、奨励金を交付するものです。

実施団体数 延べ310団体(前期154団体、後期156団体)
 奨励金交付額 約312万円(前期156万円、後期156万円)

単位：t

		29年度	28年度
区	紙パック	1	5
	紙類	1,232	1,279
	びん類	144	166
	金属類 (スチール缶、アルミ缶、その他金属)	98	101
	ペットボトル	86	92
分	その他	0	1
	計	1,561	1,644

表2 集団資源回収の回収内訳

(3) カレンダーリサイクル事業

年末年始に個人や事業所等で受け取るカレンダーや手帳などのうち、自ら使用する見込みのないものを提供していただき、これらを滝川市役所にて展示し、希望者に対してその場でお渡ししました。期間中(第1次/12月26日~27日、第2次/1月5日)にカレンダー1,570点、手帳70点が新たな持ち主に引き取られ、有効活用が図られました。

(4) 滝川市リサイクルフェアの開催

市内でも屈指の規模のフリーマーケットである滝川市リサイクルフェアは、今回も空知自動車学校の協力をいただき、同校教習コースで開催される「WaiWai フェスタ」と合同イベントとして実施しました。

開催日：9月16日(土)

入場者数：2,500人(空知自動車学校による公式発表)

フリマ出店区画数：75区画

(5) リユースショップ情報発信事業

資源の有効利用やごみの減量化を推進するための取組の一環として、製品等の再利用(リユース)の円滑化を図るべく、市内で古物営業を営む事業者店舗の情報を集約し「滝川市リユースショップ一覧表」として情報提供を行いました。

情報発信依頼店舗数：7店舗

(6) 古着・古繊維の拠点回収について

ごみの減量化やリサイクル率の向上を目的として、ご家庭で不要となった古着・古繊維の拠点回収を滝川市役所や旧粗大ごみ処理センター(中島町210)、江部乙支所で回収しました。

平成29年度の回収量は約5tで、前年度の約8tから回収量が約3t減となりました。

(7) 小型電子・電気機器の拠点回収について

ごみの減量化やリサイクル率の向上を目的として、ご家庭で不要となった小型電子・電気機器の拠点回収を滝川市役所と江部乙支所、まちづくりセンターで行いました。

平成29年度の回収量は約24tで、前年度の約33tから回収量が約9t減となりました。

(8) 雑がみの回収について

燃やせるごみの削減及び資源循環促進の一助として平成26年4月から、新たに「雑がみ」を資源ごみに加えました。平成29年度は27tで、前年度の28tから回収量が約1t減となりました。

(9) 滝川市フリーマーケット情報交流事業

滝川市内で開催されるフリーマーケットの情報を滝川市公式ホームページや電子メールを通じてPRし、フリーマーケットの活性化を支援する取組です。電子メールでの情報は市内外を問わずあらかじめアドレスを登録していただいた方に対して随時、送信しました。

発信したフリーマーケット開催情報の件数：2件

登録件数：81件

(10) 滝川市内中学校制服リサイクル事業

循環型社会実現に向け、不要になった制服を回収し、新たに必要とする生徒に提供することで、ごみの減量化やリユースの促進を図るとともに、生徒の「ものを大切にする心」や「環境に対する意識」を育むことを目的に平成28年度から開始しました。市内中学校へのチラシ配布や広報での周知を行い、市民から10着(男子用5着、女子用5着)を回収し、うち7着が譲渡されました。なお、余剰となった制服は、該当中学校に寄贈し、生徒の着替え等に活用していただきました。

(11) たきかわクリーンデーの実施

清掃による環境美化のみならず、清掃活動を通じた環境への意識高揚が期待される全市一斉清掃「たきかわクリーンデー」を町内会・学校・事業所など多くの市民の皆様にご協力いただき、春・秋の年2回実施しました。

	実施期間	参加団体数等	参加人数
春	4月15日～6月5日	161 団体 (町内会：133、事業所：12、団体10、学校：6) ボランティア袋配布数：40リットル／3,340袋 20リットル／1,937袋	7,200人
秋	10月1日～11月3日	94 団体 (町内会：80、事業所：6、団体：3、学校：5) ボランティア袋配布数：40リットル／2,131袋 20リットル／727袋	3,084人

(12) 滝川市（公用）ボランティア袋の配布

まちの美化は住民と行政が互いに協力し合って取り組むテーマであり、多くの人々が利用する道路や公共施設がきれいになっていることは、「心地よさ」とともに地域や市全体の「誇り」です。

きれいなまちで暮らすため、道路、公園、河川、公共施設などの清掃・美化にご協力いただける団体・個人の皆様に、滝川市では無料でボランティア袋の配布を行っています。なお、クリーンデーに参加される方にも配布しています。

滝川市ゴミ分別ガイド

「みんなで分別 みんなでリサイクル」の全戸配布

広報3月号で、市内全世帯（21,000世帯）に「滝川市ゴミ分別ガイド」を配布し、正しいゴミ分別知識の推進とリサイクルの意識向上に取り組みました。



(2) 地球環境 (地球全体の問題)

1 平成 29 年度における数値目標の達成状況について

省エネモニターの CO2 排出量

目標値 年平均 1%削減
 実績値 (平成 29 年度)
 前年比 1.04%減

滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量

目標値 原単位で年平均 1%削減
 実績値 (平成 29 年度) 3,479k1
 ※前年比 増減なし

平成 29 年度の評価



環境省の補助金を活用し、地球温暖化等の環境問題について、高校生や短大生を中心とした「環境教育」講座を通して保育園児から大人までの幅広い世代へ市民運動「エコライフたまかわ (通称：エコたき)」の普及促進を行いました。
 引き続き、自ら考え「人」と「地球」にやさしい行動ができる市民の育成並びに地域の明日を担う若者達が環境について学び、考える機会を提供し、環境保全全般への意識向上につなげる取組を行ってまいります。

(1) 省エネモニターの実施

内容：各家庭の生活の中でエネルギー消費を意識し、効果的な省エネルギーにどのように取り組むべきかを考えていただけるよう、一般市民を対象に省エネモニターを実施しました。

参加世帯数：32 世帯

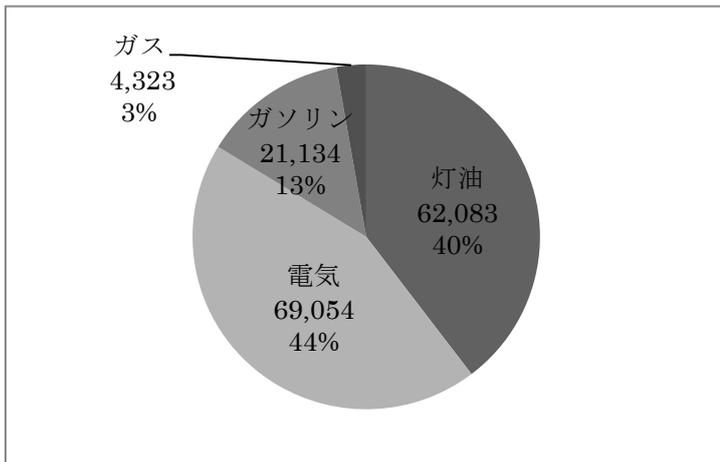
モニター対象期間：平成 29 年 8 月分
 ～平成 30 年 2 月分

対象エネルギー：電気、ガス、灯油、ガソリン



※モニターとして参加した方には、環境省や北海道が発行している「省エネ」に役立つパンフレットを配布しました。

モニター世帯における二酸化炭素排出量



★二酸化炭素排出量算出方法

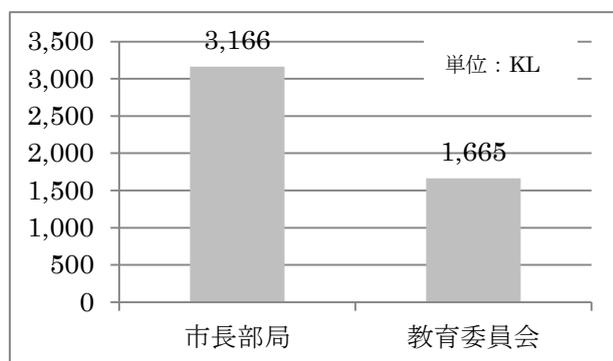
32 世帯の使用量の合算を環境省が定める CO2 排出量の計算式にあてはめ算出しています。

灯油	24,933 (L)	× 2.49	= 62,083kg
ガス	724 (m ³)	× 5.97	= 4,323kg
電気	101,401 (kWh)	× 0.681	= 69,054kg
ガソリン	9,109 (L)	× 2.32	= 21,134kg

(2) 滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量について

滝川市が管理する公共施設全体で平成29年度1年間に消費したエネルギー量は原油の量に換算すると4,831キロリットルになります。

滝川市の公共施設エネルギー消費量
(1年間に消費したエネルギー量を原油量に換算)



(3) 二酸化炭素排出抑制対策補助事業の実施について

昨年度から二酸化炭素排出抑制対策の一環として、環境省の標記補助金を活用し、地域の将来を担う若者たちへの環境教育を主題とした事業を市内教育機関や企業と連携して実施しました。

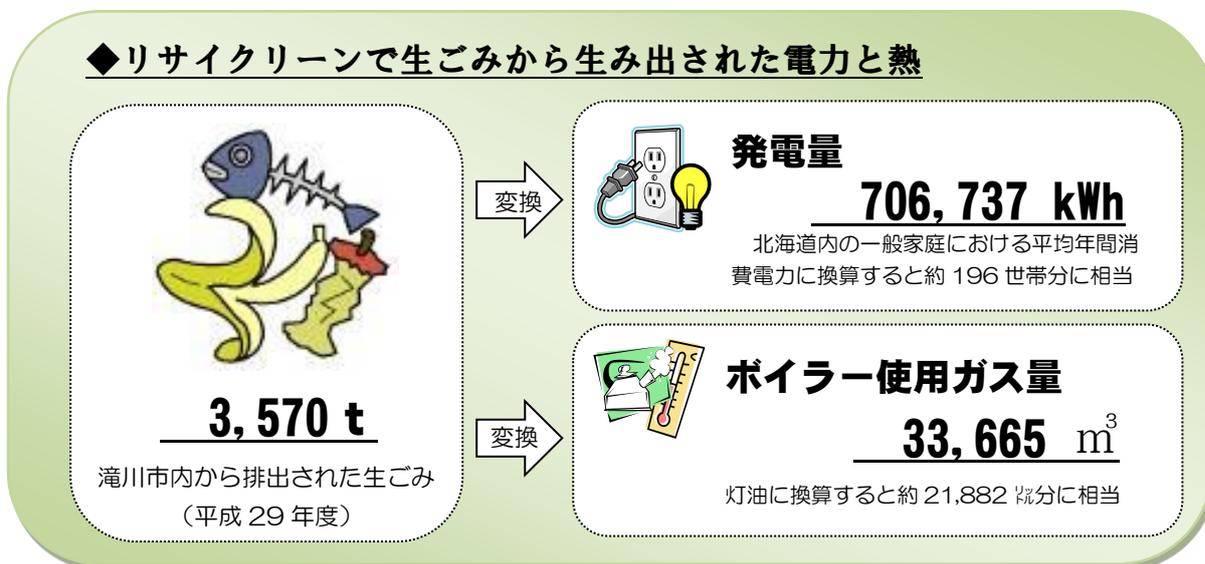
主な実施内容は以下のとおりです。

実施内容	備考
空知自動車学園と連携したエコドライブ講習会・エコドライブメールマガジンの配信	講習会／67回 (183名) メールマガジン配信／月2回×7か月＝14回 (配信者数／1,100名)
北海道環境財団による高校生を対象とした環境学習リーダー育成講座	詳細はP19参照
高校生によるCOOL CHOICEと地球温暖化・持続可能なエネルギー講座	詳細はP19参照
地球温暖化防止活動普及大使育成講座	詳細はP20参照
STOP!!地球温暖化!!!COOL CHOICEでWarm BIZ～地産地消でCO2削減～	詳細はP20参照
環境市民大会「高校生環境シンポジウム in 滝川高校」	詳細はP20参照
滝川市立開西中学校での地球温暖化講演会&ワークショップ	詳細はP22参照
市内全保育所と連携したCOOL CHOICEでエコドライブ&クールビズ・ウォームビズ啓発展示	詳細はP22参照
プレス空知、北海道新聞空知版への記事広告の掲載 ※記事の詳細は、くらし支援課HPに掲載	プレス空知 (15,000部)／10回 北海道新聞 (63,000部)／4回
北海道中央バスへの啓発ステッカー掲出	市内線20台へ掲出
市内タクシー会社3社 (合計63台)、公用車7台への啓発ステッカー掲出	タクシー会社：三和ハイヤー／16台、北星ハイヤー／32台、三星ハイヤー／7台
市内全小学校と連携した「エコたき」日記の配布	市内全小学校低学年 (1年～3年) 対象／880枚×1回

(4) バイオマスのエネルギー利用

① 生ごみのエネルギー利用

東滝川にある中空知衛生施設組合リサイクリン（滝川市のほか赤平市、芦別市、雨竜町、新十津川町と共同で運営）では、各市町で分別回収された生ごみ（一般廃棄物）から、メタンガスというエネルギーを取り出しています。メタンガスは発電機やボイラーの燃料として供給され、電力や熱に変換され施設の運営等に活用されています。



※それぞれ、施設全体の発電量及びボイラー使用ガス量に滝川市の生ごみ排出割合(63.0%)を乗じた値です。

図 1 生ごみからのエネルギー回収イメージ

② 下水道汚泥のエネルギー利用

滝川市の下水道は石狩川流域下水道(北海道及び6市4町により運営)に接続されており、奈井江町内にある下水道処理施設(奈井江管理センター)に送られ浄化されます。

そこでは、浄化処理の過程で有機物からメタンガスを取り出し、生ごみ処理と同様、得られたガスを電力や熱に変換して利用しています。

	施設全体	滝川市分
I 汚泥処理量 (t)	4,190	1,720
II 消化ガス発生量 (m³)	1,490,500	611,100
III 消化ガス使用量 (m³) →消化ガス発電等として利用	1,427,700	585,400
IV 発電量(kWh)	1,610,000	660,100

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約 183 世帯分に相当

表 3 下水道汚泥の発生

※ II～IVの滝川市分は下水処理量の割合から按分した値です。

③ 可燃ごみ焼却によるエネルギー利用

滝川市の可燃ごみは、中・北空知廃棄物処理広域連合（5市9町により組織）が設置、管理及び運営している歌志内市にある一般廃棄物焼却処理施設（中・北空知エネクリーン）に搬入、処理されます。施設はエネルギー回収推進施設として、ごみを焼却したときに出る熱を利用して蒸気タービンで発電しています。発電した電気は、施設内で使われ、余った電気は売却し、有効活用しています。

	施設全体	滝川市分
I 可燃ごみ搬入量 (t)	23,621	8,841
II 可燃ごみ焼却量 (t)	22,600	8,458
III 発電量 (kWh)	11,483,336	4,297,905
→売電 (kWh)	→6,945,325	→2,599,449

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約 1,194 世帯分に相当

表4 可燃ごみの発生量及びエネルギー回収等について

※Ⅱ・Ⅲの滝川市分は、Ⅰの割合から按分した値です。

(5) 市内公共施設における太陽光発電設備のデータの公表

平成 22 年度に設置した滝川市役所庁舎壁面の太陽光発電設備のほか、滝川市内の公共施設（北海道滝川高等学校、札幌地方検察庁滝川支部）に設置されている太陽光発電システムの発電量も集計し、滝川市公式ホームページにおいて公表しています。

 インターネットで「滝川 公共施設 太陽光発電」と検索してみてください。

各施設における発電量について

i) 滝川市役所



- ・出力：5 kW
- ・角度：90°
- ・年間発電量：3,809.1kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 12 月

ii) 北海道滝川高等学校



- ・出力：20kW
- ・角度：50°
- ・年間発電量：23,312.6kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 12 月

iii) 札幌地方検察庁滝川支部



- ・出力：5 kW
- ・角度：45°
- ・年間発電量：6,050.4kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 7 月

iv) 滝川第三小学校



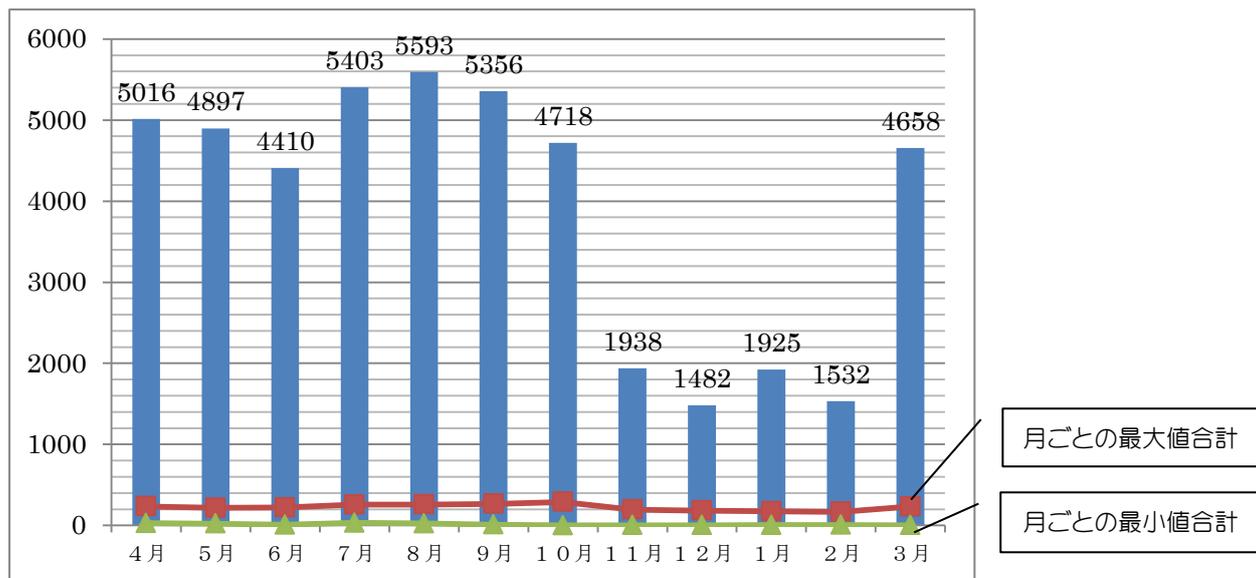
- ・出力：10kW
- ・角度：90°
- ・年間発電量：10,030.8kWh
- ・設置年月日：平成 27 年 3 月

v) 滝川ふれ愛の里



- ・出力：12kW
- ・角度：45°
- ・年間発電量：12,888.91kWh
- ・設置年月日：平成 27 年 4 月

平成29年4月～平成30年3月 太陽光発電設置5施設の発電量合計グラフ



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
最大値	234	217	220	257	259	266	289	196	183	174	168	232
最小値	28	22	8	32	25	11	1	3	3	5	7	2

※発電量合計は、集計機器トラブルや雪害等の影響で全ての施設の数値が反映されていません(詳細は、滝川市役所ホームページを参照ください)

※検察庁は毎月の総発電量のみ集計しているため最大値、最小値の集計から除外(第三小学校4月～6月、ふれあいの里1月～3月は集計機器トラブルのため、集計から除外)

(6) 町内会街路灯切替促進補助金

希望する町内会の街路灯をLEDに切替促進するための補助金を支出し、町内会等が維持・管理する街路灯をLEDに切替促進しました。

平成29年度実績：458灯

※街路灯のLED化率61.65% (LED：3,592灯、LED以外：2,234灯 合計5,826灯)

(7) 市内公民館の照明をLEDへ切替

市内公民館の照明をLEDへ切替しました。

コミュニティーセンター名	場所	切替数
緑地区コミュニティーセンター	誘導灯	2基
	図書室	8基
	事務室	4基
	外灯	1基
北地区コミュニティーセンター	事務室	4基
	児童室	8基
扇町コミュニティーセンター	事務室	4基
	図書室	5基

地球環境と調和した次世代エネルギーの理解増進
滝川市次世代エネルギーパーク



「次世代エネルギーパーク」とは、小学生から高齢者まで国民各層が、再生可能エネルギーをはじめとした次世代エネルギー設備や体験設備を通じて、日本のエネルギー問題への理解の増進を深めることを目的に経済産業省資源エネルギー庁が認定するものです。

平成 27 年度当市が認定されたことにより、道内の認定件数は札幌市、稚内市、伊達市、芽室町、足寄町、下川町と合わせて 7 件になりました。

平成 28 年度から JR 滝川駅前広場の整備工事に着手し、平成 29 年度からは、小形風力と太陽光のハイブリッド街路灯や、太陽光発電設備を屋根に設置した駐輪場を設置し、本格的に始動しました。

(3) 自然環境・農業（自然・農業の保全）

1 平成 29 年度における数値目標の達成状況について

エコネット登録団体の自然保護活動参加人数

目標値（平成 28 年度～37 年度累計） **8,700 人**

実績値（平成 28～29 年度累計） **1,237 人**

○NPO 法人まち・川づくりサポートセンター

- ・石狩川クリーンアップ作戦／91 名
- ・石狩川再生の森／6 名
- ・WET プログラム（春・夏・秋・冬）／55 名

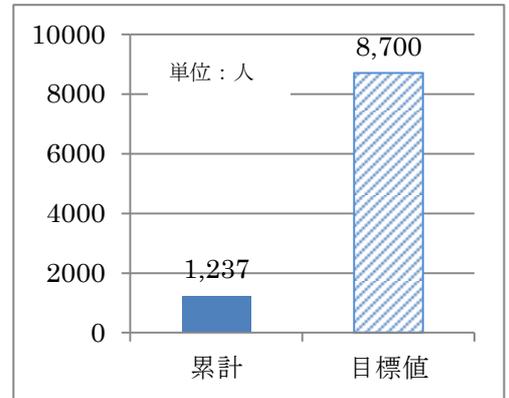
○江部乙丘陵地のファンクラブ

- ・フットバス参加者／110 名

○滝川おもしろ食育塾（農業体験）

- ・思春期食育教室／112 名、青年期食育教室／203 名

☆H29 年度までの状況



エコネット登録団体の自然保護活動参加人数 (累計)

農業体験授業（事業）実施校数

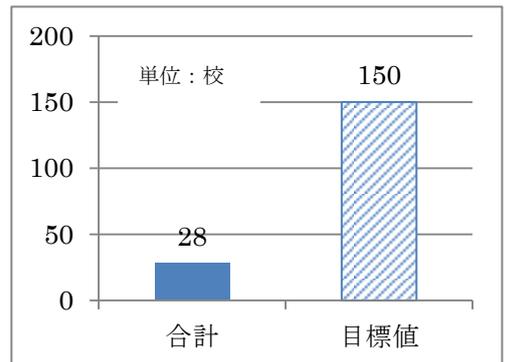
目標値（平成 28 年度～37 年度累計） **150 校**

実績値（平成 28～29 年度累計） **28 校**

○平成 29 年度の実施校 15 校（順不同）

滝川幼稚園、白樺幼稚園、一の坂保育所、江部乙保育所、花月保育所、中央保育所、二の坂保育所、第一小学校、西小学校、江部乙小学校、江陵中学校、開西中学校、江部乙中学校、北海道滝川西高等学校、國學院大學北海道短期大学部

☆H29 年度までの状況



農業体験授業（事業）実施校数(累計)

平成 29 年度の評価



土や緑と触れ合い、自らの手で食物を育て収穫する喜びを味わうことで、食べ物や生き物の大切さを学ぶことはもちろん、役割分担や共同作業によって協調性・社会性も育む効果もあり、その土地ならではの食物を育てることで、地域への理解が深まることが期待できます。

このことから、エコネット登録団体のイベント等の周知を引き続き行い、イベント参加者並びに登録団体の拡充に努めて行くとともに、関係各所と連携しながら、農業体験授業（事業）への協力、参加を呼び掛けて行きたいと考えています。

2 平成 29 年度の主な取組等について

(1) 地域農業の振興と住民等との交流促進のための取組

① そらちワイン×ワイン Festa

開催日：平成 29 年 9 月 2 日(日)

場 所：J A たきかわ赤レンガ倉庫前駐車場

来場者：2,200 名

内 容：空知管内 5 ワイナリーで醸造された 16 種類のワインや滝川産クラフトビールの販売のほか、滝川市内外の飲食店によるお酒に合う料理の提供なども行い、来場者に滝川と空知の食の魅力を発信しました。

② 農業体験の推進

i 心と体を育てる体験型食育教室

地域農業者との連携を図りながら、農業体験等を通じて、次世代を担う子どもたちや学生たちに食や環境の大切さについて理解を深めてもらうためのプログラムを実施しました。

たきかわエコネット

「滝川おもしろ食育塾」による取組

■ 思春期食育教室

開 催 日：平成 29 年 6 月 1 日(金)～11 月 9 日(金)

対 象：滝川西高等学校 3 年生(フードデザイン選択)

内 容：畑作体験(畑おこし、種まき、講義、収穫、調理・加工実習)

参加人数：延べ 112 人(全 8 回)

■ 青年期食育教室

開 催 日：平成 29 年 6 月 7 日(水)～12 月 20 日(水)

対 象：國學院大學北海道短期大学部初等教育学科 2 学年

内 容：稲作体験(田植え、生き物観察、稲刈り・はさがけ、脱穀)
調理実習(収穫祭)など

参加人数：延べ 203 人(全 6 回)

ii グリーンツーリズムに係る取組

ア) 「そらちDEい〜ね」を介した受入事業

時 期：平成 29 年 5 月 23 日～平成 30 年 2 月 2 日

参加人数：13 校 91 人(前年度 16 校 139 人)

農 家：延べ 23 戸(前年度 60 戸)

イ) 國學院久我山中学校(東京都)の受入事業

時 期：平成 29 年 9 月 3 日～4 日(1 日半の日帰り農業体験)

参加人数：4 名(前年度 8 名)

農 家：1 戸(前年度 8 戸)

※これらの受入のほか、個別農家単位での受入等の取組も行われています。

(2) 自然とふれあいの取組

たきかわエコネット

「たきかわ環境フォーラム」による取組

■エコカフェの開催（平成 29 年 5 月 16 日～11 月 26 日（全 3 回）

※テーマに沿って講師を中心に身近な環境問題について語り合う集いです。

事業名	講師/内容
① 「フラワーソンのアソビかた」 ・開催日：平成 29 年 5 月 28 日（日） ・場 所：まちづくりセンターみんくる	越後 弘さん （日本野鳥の会滝川支部長 たきかわ環境フォーラム事務局長）
② 「サーモンピクニック&エコカフェ」 ・開催日：平成 29 年 10 月 1 日（日） ・場 所：川の科学館	新十津川町の徳富川や総富地川の河川敷を歩きながら、野生サケの自然産卵シーンを観察します。
③ 「環境DNAの衝撃！」 ・開催日：平成 29 年 10 月 1 日（日） ・場 所：川の科学館	荒木 仁志さん （北海道大学大学院教授）
④ 「こうもりウォッチングの愉しみ/東滝川・江部乙コウモリ観察報告会」 ・開催日：平成 29 年 11 月 26 日（日） ・場 所：まちづくりセンターみんくる	発表 1 / 中川 真里亜さん（北海道滝川高校科学部） 発表 2 / 出羽 寛さん（オサラッペ・コウモリ研究所） 発表 3 / 長澤 秀治さん（北海道滝川高校教諭・たきかわ環境フォーラム） スペシャルゲスト / 中島 宏章さん（写真家）

■例年、滝川市南東部の石狩川水系空知川において COD（化学的酸素要求量）値を測定するために行っていた「身近な水環境の全国一斉調査」への参加は、平成 28 年度より滝川高等学校科学部へ引き継ぎました。

(3) 川との共生に向けた取組

たきかわエコネット

「NPO まち・川づくりサポートセンター」による取組

◆みんとち自然体験楽校（団体） ※みんとち=アイヌ語でカップの意味

1 年を通じて石狩川の自然を体験してもらうため、春・夏・秋・冬の 4 つのコースを計画し、石狩川から学ぶ自然体験活動を通して、自然からの発見と体験の面白さを直接体験する内容を計画しました。また、活動を通して仲間との協力や異年齢との人間関係を学び、社会性や郷土愛も育まれることも期待できます。（滝川市内の小学校 3 年～6 年生を対象として参加者を募集）

① 春コース：みんとちのひみつ

開催日：6 月 18 日（日）

内 容：石狩川周辺の春の自然観察を行いました。小学校の運動会が雨のため順延となり、予定していた参加者が減ったが、天候に恵まれ「石狩川再生の森」までの春の植物や野鳥の観察をしました。

「自然ビンゴ」では、五感を通して発見する楽しさを味わった。高学年が道路わきの空缶やペットボトル等のゴミを自主的に拾う様子が見られました。

参加人数：10 名



木の葉のシルエットクイズ



ラウネ川まで自然探検



自然観察（自然ビンゴ）

② 夏コース：みんとちの冒険

開催日：7月29日（土）～30日（日）

内容：石狩川から見る川岸の自然観察や川の体験活動を通し、川と暮らし・環境保全の大切さに気づくことを目的としたもので、天候にも恵まれ、予定通りの活動を行うことができました。参加者は、普段体験することができない、Eボートや川流れ、魚すくい、浸水市街地歩行訓練など自然体験を通して川と暮らし、防災の基礎知識も学習しました。夜は段ボールを利用した防災キャンプを行い、非常食を食べ、避難所生活の疑似体験をしました。

参加人数：18名



ミントチの川流れ：水圧や水流を体感



Eボートで川下り



みんなで力を合わせ「防災ゲーム」

③ 秋コース：みんとちの知恵

開催日：9月30日（土）

内容：サケの遡上や自然産卵の観察を通して、環境の変化や動植物とのつながりについて興味や関心を持つことを目的としました。また、自然物を活用した創作活動をしたり、魚類の観察をしたり、滝川産リンゴの味比べなど秋の自然を五感で体験できるよう実施しました。

参加人数：17名



サケの遡上を観察



川原の石ころでアート



りんごの味比べ

④ 冬コース：みんとちのかくれ家

開催日：平成30年2月3日（土）

内容：冬の石狩川周辺の自然を観察し、水の変化や北海道ならではの雪に親しむ活動を目的としました。雪を踏み固めて切り出したブロックを積み重ねてイグルーを作ったり、雪原を歩いたり、動物の足跡をたどったり、冬芽を観察したり、そりすべりを体験しました。雪に閉ざされていても、生物は春の準備をしていることや生命を維持していることなどを体験的に学びました。インフルエンザによる学級閉鎖のため、参加者が少なかったが天候にも恵まれ、参加者は喜々としていました。

参加人数：10名



雪の結晶を観察



雪のブロックを積み重ねる作業



スノーシューで雪原探索

◆「滝川地区地域防災施設（川の科学館）」来館者への普及活動

●来館者：4,114人(体験型環境学習参加者：大人2,351人／子ども1,763人)

◆滝川地区地域防災施設を活用した環境・防災の学習

●プロジェクトWET

※1 プロジェクトWET (Water Education for Teachers)とは…

水や水資源に対する認識・知識・理解を深め、責任感を促すことを目標として開発された「水」に関する教育プログラムのことをいう。「社会」や「理科」などをはじめとした様々な教科に応用ができるといったことや、グループワークを通じ、意見調整能力や発表能力、リーダーシップなどの能力を高めることができる。

① 流水実験

実験装置による流れる水の働き（浸食・運搬・堆積）を観察し、狭い川と広い川の水の流れを比べ、流れる水の働きによる地形の変化を実験装置で分かりやすく説明しました。また、水量が増える原因やその結果についても考えさせ、気象や地形、川との暮らしや災害との関連についても気づいたり考えたりできるようにしました。

(学校教育との関連：小学校5・6年理科、全学年及び一般への防災教育)

② 自然再生ジオラマ

石狩川は、長さ日本第3位の一級河川で、実験装置で蛇行している川と治水により直線になった川の違いを目で確かめることにより、流速や低地の様子、川の役割などを学年に応じて分かりやすく説明しました。また、石狩川とともに人々の暮らしや産業が発展したことにも気づかせました。

(学校教育との関連：小学校5年理科・社会、全学年及び一般への石狩川の知識)

③ 「プロジェクトWET」による水の環境学習（表面張力の実験）

水の表面張力についておはじきとクリップを使い体験的に確かめる活動を行いました。実験の途中でコップの水面に着目させ、表面張力とは何かを体験的に考えさせ、日常生活でも表面張力の現象は見られ、葉っぱの上で水滴が丸くなることやアメンボが水面を泳ぐことなども表面張力であることにも気づかせました。

④ 「プロジェクトWET」による水の環境学習（驚異の旅）

自然界で水は、気体・個体・液体の三態に変化しながら地球上を循環していることに気づかせるため、水の変化と行先をサイコロの目で決め、変化した理由を考えながらゲームできるようにしました。

雨水が地面にしみ込んだり、低い土地に流れたり、蒸発したり自然界の水の行方について考えながら、地球上の水環境の大切さについて気づかせました。

(学校教育との関連：小学校4・6年理科・中高校生)

⑤ 「プロジェクトWET」による水の環境学習（水のパパ抜き）

自然界の水の三態（気体・液体・固体）や環境について、「パパ抜き」や「神経衰弱」の遊びを通して雪・雨・ひょう・あられ・霧・空気・氷山などの自然現象も水の変化であることを考えられるようにしました。

(学校教育との関連：小学校4年理科、その他全学年)

※上記 ③～⑤は、団体の滞在時間に合わせて自由活動として実施しました。

⑥ 石狩川 1/1000 模型で調べよう（リバーウォーク）

神居古潭から石狩湾までの流域で合流する河川名、市町村名、ショートカットによりできた三日月湖を調べたり、石狩川の中流域の様子や滝川市の近隣市町の様子を模型の川を歩きながら調べたりできるようにカードを用意しました。正解者には、「リバーインテリジェント」として認定カードを発行しました。

(学校教育との関連：生活科、小学校4年社会、小学校5・6年理科)



① 流水実験



② 自然再生ジオラマ



③ 「プロジェクトWET」による
水の環境学習(表面張力の実験)



④ 「プロジェクトWET」による
水の環境学習(驚異の旅)



⑤ 「プロジェクトWET」による
水の環境学習(水のババ抜き)



⑥ 石狩川 1/1000 模型で調べよう
(リバーウォーク)

●防災学習

⑦ 防災・減災を考える体験活動

近年の気候変動や河川災害の状況から、防災に関する学習活動を要望する学校も見られるようになりました。災害想定図上訓練の活動を通して、自分達の住む地域の特徴を知り、想定される災害を予想し、いざという時の行動や避難方法、想定外についても考えられるような学習を提供しました。

⑧ 川から自然環境を考える活動(川下り)

今年度は、Eボート(10人乗りのゴムボート)による川下りを複数回実施し、多くの市民に川を体験してもらいました。石狩川下りを通して、参加者それぞれが河川環境や文化・歴史・暮らし、災害・減災・防災などについて気づいたり考えたりできるようになるような学習を提供しました。

参加者は、水災害の恐ろしさや川岸の漂流物などを目の当たりにし川のゴミは街からのゴミであること、流域全体で環境を考えることが大切であることなどに気づいていました。

⑨ 川に学ぶ体験活動指導者養成(RACレスキューインストラクター、RACリーダー)

川の活動をより多くの市民に安全に楽しく体験してもらうための指導者養成を行いました。

川の活動は特別な人だけが行うのではなく、誰もが安全に楽しく気軽に体験できるように、安全指導面での人材、川の楽しさと魅力を伝え体験活動を普及できる指導者を養成しました。

- ・ 5月20日～21日 RACレスキューインストラクター養成講座
- ・ 6月10日～11日 RAC・NEALリーダー・Eボート指導者養成講座



① 防災・減災を考える体験活動



② 川から自然環境を考える活動



③ 川に学ぶ体験活動指導者養成

●環境美化活動

⑩ 石狩川クリーンアップ作戦

私たちの暮らすまちや川をきれいにし、豊かで過ごしやすい空間になるように、河川愛護団体や町内会、ボランティア等の団体に呼び掛けて、石狩川やラウネ川周辺のゴミ拾いを行いました。

開催日：5月28日（日）

参加人数：9団体 91名



(4) 森との共生に向けた取組

「江部乙丘陵地のファンクラブ」による取組

■フットパス事業（全9回）

開催日：平成29年4月23日（日）

～平成30年2月18日（日）

内容：江部乙丘陵地を歩いて、自然観察等を行いました。

参加人数：延べ110人

たきかわエコネット



■野鳥の会滝川支部

定期的に野鳥や自然の観察会を実施しています。詳細はホームページをご覧ください。

(5) そのほか、たきかわエコネット登録団体の取組

■滝川消費者協会の取組

第43回滝川消費者まつり

開催日：平成29年10月3日（火）

内容：環境展示とパネル展示やゲーム、リメイクファッションショーなどを実施しました。

参加人数：480人



リメイクファッションショー



菜の花劇団による寸劇



食品ロスクイズコーナー

○民間団体の活動のピックアップについて

「滝川おもしろ食育塾」、「NPO法人まち・川づくりサポートセンター」、「たきかわ環境フォーラム」、「江部乙丘陵地のファンクラブ」、「滝川消費者協会」は、市内で活動する民間団体として、それぞれユニークな取組を展開されており、『自然環境・農業（自然・農業の保全）』、『環境コミュニティ（人とのつながり）』で特に取り上げさせていただきました。それぞれの団体につきましては、たきかわエコネット（P23 参照）にも登録されていますので、そちらもご覧ください。

なお、民間団体の取組については、今後も積極的にピックアップしていきたいと考えていますので、まずは「たきかわエコネット」へのご登録をお願いします。

(4) 環境コミュニティ

1 平成 29 年度における数値目標の達成状況について

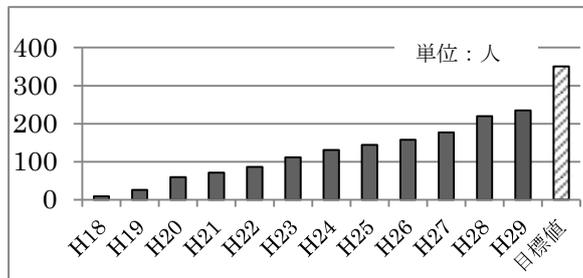
環境学習リーダー養成講座受講者数

目標値（平成 18 年度～37 年度累計） 350 人

実績値（平成 29 年度累計） 235 人

（うち平成 29 年度 15 人/年）

☆平成 29 年度までの状況



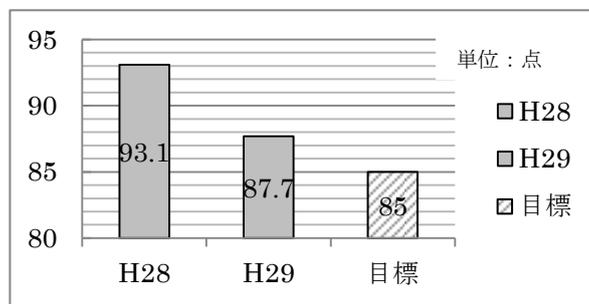
環境学習リーダーの人数（累計）

環境市民大会※における参加者の平均評価点

目標値 85 点以上

実績値（平成 29 年度） 87.7 点

※環境市民大会は、環境に関する市民からの意見等を聴取する場として市が毎年度開催することとしています。



環境市民大会における参加者の平均評価点



平成 29 年度の評価

昨年度に引き続き、環境省の補助事業「二酸化炭素排出抑制対策等事業費」を活用し、道内で環境教育を専門に行う講師による環境学習リーダー養成講座を実施。高校生や短大生が子ども達へ環境教育を行う際に必要な専門的な知識と技術を身に付けました。

環境市民大会では、平成 29 年度から会場を北海道滝川高等学校に移し、同校が目標としている「環境共生」と「グローバル人材の育成」に焦点をあて、国際と環境をテーマにした講演会を実施したほか、エコ部！や科学部、海外研修班による学習成果発表会も実施しました。

環境学習リーダーの活動並びに滝川高等学校での環境市民大会は地域住民や教育機関からの評価も高いことから、将来の地域を担う若者たちの地球環境保全に関する意識向上を図るため、今後も内容を充実させ地域と連携しながら取り組んでいきたいと考えています。

2 平成 29 年度の主な取組等について

- (1) (公財) 北海道環境財団による高校生を対象とした環境学習リーダー養成講座の実施
次世代を担う高校生が専門的な講座受講や子ども達へ教えるという活動を通して、高校生自身も自らの行動を振り返り、自分自身で考え、人と地球に優しい行動ができるようになることを目的に実施しました。

文部科学省からスーパー・サイエンス・ハイスクール（以下 SSH）に認定されている北海道滝川高等学校の科学部と平成 26 年度に市内の子ども達へ環境教育を行うことを目的に発足した「滝川市内高校生ボランティアチーム『エコ部！』」の生徒が、北海道環境財団が実施する専門的な環境講座を受講し、高校生が児童センターなどで環境教育を実施

する際に必要なノウハウを学んだほか、講座の受講を通して、高校生自身が普段の生活を振り返り、「人」と「地球環境」について再度考え、責任ある行動がとれる人材を育成する場として活用しました。

◆環境学習リーダーの人数

エコ部！／5人（滝川西高等学校：4人、滝川工業高等学校：1人）
北海道滝川高等学校科学部／5名

◆活動回数

平成29年4月14日（金）～平成30年3月14日（火）（全11回）

◆夏休み環境教室

エコ部&滝川高校科学部 Presents

夏休み特別イベント「太陽ってすごい！太陽からでんきを作ろう！！」

主 催：エコ部！、北海道滝川高等学校科学部

開 催 日：平成29年8月1日（火）～8月3日（木）1日2回×3日＝6回

場 所：学童クラブを併設する市内児童センター6館

参加人数：240名

内 容：夏休み中に市内の児童センターに通う子ども達を対象に、太陽光とペットボトルを利用した「ペットエコライト」の工作教室や省エネルギーと地球温暖化、COOL CHOICEをテーマにした環境講座を実施しました。
高校生が先生役となることで、小学生が環境に興味を持つ一助となったことはもちろん、高校生との交流を通して教わった知識が末永く残ることで、自分たちが高校生になった時に、今度は小学生に指導する立場になるなど、次世代に続く波及効果が期待できるような取組を行いました。また、ソーラークッカーを使用した実験や使用済みペットボトルを使用し、太陽光パネルを使用したエコライト工作を行う際に必要な技術面については、空知管内に在籍する教員が専門的な研修を受講する施設「空知教育センター」から元小学校理科教諭で、同センターの所長を講師として派遣していただき、小学生に教えるに当たっての注意点や子ども達がより理解しやすい教え方のテクニックなどを学び、イベントで子ども達の理解が深まるような工夫を行いました。小学生が楽しみながらかつ効果的に地球温暖化について学ぶことができるように必要な知識やテクニックを身に付けたことはもちろん、市内の教育機関と連携することにより、幅広い年齢の市民との相互交流を通して、様々な気づきが生まれました。



エコ部！&滝川高校科学部による市内児童センター6館での環境教室

(2) 地球温暖化防止活動普及大使

國學院大學北海道短期大学部で将来小学校教員を目指し、教職課程を履修する学生を「地球温暖化防止活動普及大使」として養成。普及大使の養成には、専門的な知識が必要となるため、環境教育に長年携わる北海道環境財団に指導・助言を仰ぎ、普及大使となる学生には、地球温暖化問題や国民運動「COOL CHOICE」の背景等の基礎的な情報、民生・家庭部門における取組推進における考え方等、基盤的な知見や伝え方のノウハウなどを同財団が保有するオリジナルプログラムへの参加を通して学んでもらいました。

・地球温暖化防止活動普及大使／（國學院大學北海道短期大学部学生5名）

※地球温暖化防止活動普及大使は、育成講座以外にも自主的に16回集まり教材の作成等を行いました。

◆地球温暖化防止活動普及大使による環境教室

- ①滝川市立二の坂保育所 年長児童 35名対象 平成29年12月6日(水)
②滝川市立第一小学校 5年生児童 40名対象 平成29年12月13日(水)

主 催：滝川市

共 催：國學院大學北海道短期大学部

内 容：「地球温暖化防止活動普及大使」として育成した國學院大學北海道短期大学部幼児・児童教育学科児童教育コース2年生6名が、市内保育所並びに小学校において「COOL CHOICE とは何か」や「地球温暖化の現状とその防止対策」について子ども達へ直接環境教育を行い、子ども達が地球温暖化の現状に興味・関心を持つきっかけづくりとしました。

短大生が環境教育を行うことで、次世代の「普及大使」の育成に貢献するとともに、異年齢交流を推進し、地域における環境コミュニティの創造・拡大を図りました。



短大生による滝川市立二の坂保育所、滝川市立滝川第一小学校での環境教室

(3) STOP!!地球温暖化!!!COOL CHOICE で Warm BIZ～地産地消でCO2削減～

主 催：滝川市

共 催：滝川市保健センター、滝川市立図書館、北海道滝川高等学校クッキング部

開催日：平成29年9月30日(土)

参加人数：小学校1年生～6年生とその保護者20組(40名)

内 容：地元食材を積極的に活用することで、食材運搬の際に出る二酸化炭素を削減できること、体の中から温める食材や調理方法を学ぶこと、さらに寒い時期も積極的に外出し、イベント等に参加することで各家庭で使用する暖房を削減する「Warm Biz」、「Warm Share」がもたらす効果等について、市立図書館や保健センターなどの講師から学んだほか、管理栄養士の資格を持つ講師と滝川高校クッキング部の生徒が滝川市の特産品を使い、体の中から温まる料理を子ども達と一緒に作り、子ども達やその保護者に厚着以外でもできる「Warm BIZ」の正しい知識を深めてもらいました。



りんご狩りと滝川高校クッキング部による体が温まる料理教室

(4) 環境市民大会「高校生環境シンポジウム in 滝川高校」

主 催：滝川市

共 催：北海道滝川高等学校

開催日：平成29年11月11日(土)10:30～12:30

場 所：北海道滝川高等学校 体育館

参加人数：530名

【第1部】基調講演

演 題：「地球環境と難民」

講 師：公益財団法人地球環境戦略研究機関所長 森 秀行氏

内 容：二酸化炭素の増加が原因と考えられる世界的な異常気象により、元々住んでいた場所から移動せざるをえない「環境難民」・「気候変動難民」が年々増加の一途をたどっています。異常気象、酸性雨、干ばつなど、地球温暖化が原因で世界各地で起こる深刻な問題について、元環境省職員で国連難民高等弁務官事務所職員としてアフリカで難民支援の経験を持つ講師にお話しいただき、教科書では学ぶことができない生きた情報を知ること、普段は「他人事」として考えがちな世界の環境問題を身近に捉え、自分たちの普段の行動と世界とのつながりについて考える一助としました。また、講演終了後には、代表生徒によるパネルディスカッションを行い、ルワンダで急激な人口増加が起きた要因、難民キャンプでの再生可能エネルギーの活用などを質疑し、森所長と意見を交換しました。



森 秀行氏による講演会



講師と代表生徒とのパネルディスカッション

【第2部】活動報告&学習成果発表会

内 容：滝川西高等学校と滝川工業高等学校の有志で構成する滝川市内高校生ボランティアチーム「エコ部！」と滝川高等学校科学部が夏休みに市内の児童館6館で小学生を対象に実施した環境教育についての発表を行ったほか、スーパー・サイエンス・ハイスクール（通称：SSH）のカリキュラムの一環で、マレーシアの自然環境を調査した海外研修チームが「パーム油」を通して見えてくる「日本とマレーシア」の環境問題のつながりについて、理数科課題研究チームは外来種の生物などの分布調査や東滝川に生息するカゲヤコウモリの研究についての発表を行いました。



高校生による活動報告&学習成果発表会

(5) 1年を通じた活動

平成28年度から「捨てればゴミ、分別すれば資源」の考えに基づき、捨てられるものを活用して「人」と「地球」にやさしい活動を新たにはじめました。広報やプレス空知などでの周知のほか、エコ部！部員がポスターを作成し市内の関係機関等に配布や町内会へのチラシ折込を行った結果、多くの市民の皆様にご協力いただき、下記の成果を出すことができました。引き続き、市内の関係機関と連携を取りながら回収を行い、リサイクルを積極的に行っています。

回収項目	活用方法	成果（結果）
ペットボトルキャップの回収	ストラップ、車、バイクなどの部品に再利用するほか、色別に分別する際に障がいをもつ方々の雇用創出の一助となっています。	45 リットル袋 46 袋を NPO 法人 全国障害者福祉援護協会・マックスバリュ北海道株式会社へ寄贈
使用済みインクカートリッジ	リサイクルカートリッジやボールペン等に再利用されます。専門業者に買い取ってもらった収益で、環境絵本などを購入し、図書館へ寄贈します。	市立図書館へ環境関連の書籍 6 冊を寄贈

(6) 滝川市立開西中学校での地球温暖化講演会&ワークショップ

主 催：滝川市

共 催：滝川市教育委員会

開 催 日：平成 30 年 2 月 14 日（水）13 時 05 分～15 時 35 分

場 所：滝川市立開西中学校 体育館

参加人数：50 名

内 容：地球温暖化の現状を理解し、省エネについて考えることを目的に 1 年生 50 名を対象に実施しました。当日は、受身の講義だけではなく、生徒同士が地球温暖化の防止策について話し合い、まとめた意見を発表するワークショップも行い、普段の生活から無理せずに行える地球と人にやさしい行動について考える機会を提供しました。



ワークショップと発表の様子

(7) 市内全保育所と連携した COOL CHOICE でエコドライブ&クールビズ・ウォームビズ啓発展示

主 催：滝川市

共 催：空知自動車学校

開 催 日：夏／平成 29 年 6 月 23（金）～8 月 23 日（木）（滝川市立図書館）

平成 29 年 9 月 16 日（土）／リサイクルフェア（空知自動車学校）

冬／平成 30 年 2 月 22（木）～3 月 21 日（水）（滝川市立図書館）

内 容：滝川市内全保育所の協力を得て、年長 162 名による「COOL CHOICE でエコドライブ」のぬり絵展示を行いました。また、展示に合わせてクールビズ、ウォームビズの啓発展示も同時に行いました。



保育所入所児童による塗り絵とクールビズ／ウォームビズ啓発展示の様子

たきかわエコネット登録団体：8団体(平成30年3月末現在)

団体名	活動内容	団体名	活動内容
「緑とエコ」サポーターネット	<p>当会は平成13年6月10日に行われた「石狩川ルネサンスの森」の創設時に、森林の持つ多様な機能の育成と緑によるゆとりと潤いのある環境の整備を図り、循環型社会づくりを進めることを目的として設立しました。</p> <p>これまでの主な活動は、毎年行われる「石狩川ルネサンスの森」整備事業であり、その他には、石狩川の水源の1つである南富良野町にあるかなやま湖で「水源の森創造交流会」などを行っています。</p>	日本野鳥の会滝川支部	<p>滝川市を中心に空知管内でバードウォッチングを通して自然保護活動を続けています。石狩川と空知川の2大河川が流れる空知には広大な河川敷地と河畔林があり、草原や森林を好む鳥たちの重要な繁殖地となっています。</p> <p>また、河川改修でできた三日月湖も多く残っていて、渡り鳥たちが旅の途中で羽を休め繁殖地や越冬地に向かいます。そんな野鳥たちの観察記録を蓄積し、鳥たちの生息環境の保全活動をしています。</p>
江部乙丘陵地のファンクラブ	<p>江部乙丘陵地は農村部に珍しいほどの豊かな自然を生み育ててきた土地です。</p> <p>私たちは、この地に多くある魅力を道内はもとより日本全国へ発信するため、フットパスや自然観察会を軸とした地域密着型の環境への取組を行っています。</p> <p>私たちの取組が、地域の活性化に少しでも役立てば幸いです。</p>	たきかわ環境フォーラム	<p>市民グループ「たきかわ環境フォーラム」は、1つのキーワードを掲げて活動しています。それは「エコアップ！」。</p> <p>私たちが暮らす地域の環境を見つめ直しながら、少しずつ「自然の豊かさ」を高めていこう、という願いを込めました。実現のために情報を集めたり、その情報を再発信したりする役目も果たせたらと思っています。</p>
滝川消費者協会	<p>本会は環境保全への取組はもちろんのこと、消費生活の安定向上及び消費の合理化普及を目指すため、各種イベントを開催し、会員相互の親睦及び一般消費者とのふれあいを目的に事業を行っています。</p>	滝川おもしろ食育塾	<p>滝川市内の未成年者の農業体験を主軸とする食育教育の企画、現場活動を行っています。現在、國學院大學北海道短期大学部、滝川西高等学校家庭科で実施中。今年度は小学生の夏休み教育ファームを実践します。</p> <p>中空知で生まれ育った子供たちが、命をつなぐ食と人との関わりを五感で感じることや、故郷の農村に誇りを持っていただくことなど、その後に良い影響を受けてもらうことを目標に活動しています。</p>
手紬染織工房たきかわ	<p>滝川で飼育されている羊の毛を主に使い、身近にある草木で自然の色を染め、糸を作って織物や編み物など、日常的に使用できる作品を作り、販売することで羊毛の暖かさや、自然の色の素晴らしさを知ってもらうことを目的として活動しています。</p>	NPO法人 まち・川づくりサポートセンター	<p>石狩川再生の森整備、ゴミ拾い活動、水防水難訓練支援(レスキュー訓練、舟漕ぎ大会)、たきかわ子ども水辺協議会の活動、指導者の育成(RAC、CONE、プロジェクトWET・ワイルド・ラーニングツリーなど)</p>

環境都市宣言

わたしたちのまち滝川は、石狩川と空知川に育まれた豊かな大地と自然の恵みを受けて、健康で文化的なまちとして発展してきました。

しかし、今、人々の営みは、豊かな自然や調和のとれた地球環境に大きな影響を与えています。

21世紀を迎え、わたしたちは、地域の優れた環境を再生し、美しい地球を未来に引き継ぐため、環境にやさしいまちづくりに努めることを誓います。

平成15年1月1日

滝川市



第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画

— 年次報告書 —

(平成29年度評価版)

平成30年 月 日作成

〒073-8686

北海道滝川市大町1丁目2番15号

滝川市 市民生活部くらし支援課（環境衛生係）

電 話 0125-28-8013（直通）

F A X 0125-24-0154

e-mail kurasi@city.takikawa.hokkaido.jp